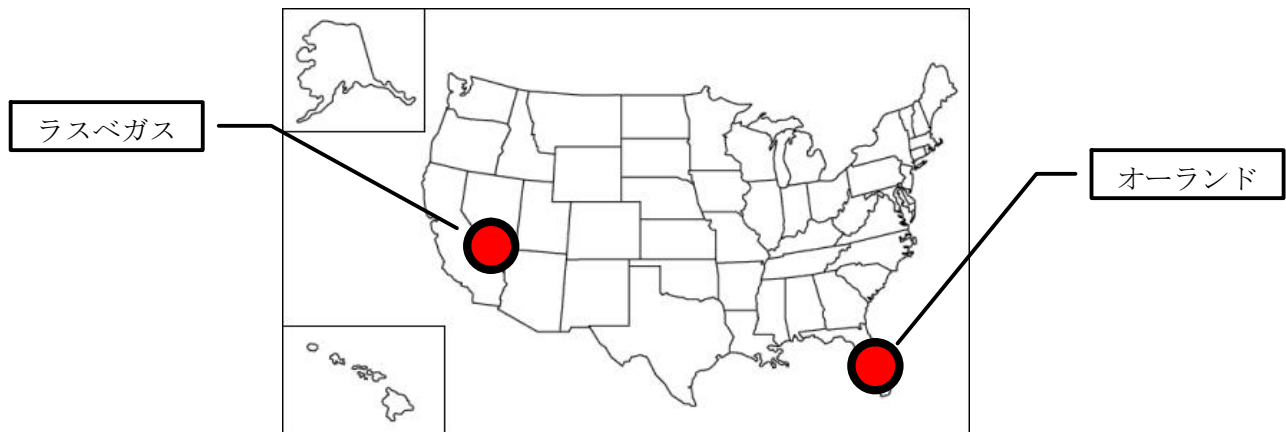


カジノ vs. ディズニー：究極の観光資源対決

エンタテインメントビジネス総合研究所

主任研究員 木曾 崇

米国で最も代表的な観光都市として挙げられる都市に、カジノを中心として各種エンターテインメントを発展させたカジノ都市・ラスベガスとディズニーワールドを初めとする複数のテーマパークを中心に発展したテーマパーク都市・オーランドがある。



フロリダ州 オーランド

都市人口：22 万人 広域都市圏人口：約 200 万人

気候：亜熱帯気候

歴史：第二次世界大戦中から軍事拠点として栄えた都市。1971年にディズニーワールドが開業した事を境に観光都市へと転身。フロリダ州の温暖な気候と相まって全米屈指の観光・保養都市へと発展する。市内にはディズニーワールドの他、ユニバーサルスタジオ、シーワールドなど幾つものテーマパーク・遊園地を有す。その他、ゴルフ場や豪華なリゾートホテルなどが林立し、郊外には幾つものショッピングセンターを持つ。

主産業：観光業、農業、精密機械製造業

ネバダ州 ラスベガス

都市人口：55 万人 広域都市圏人口：約 190 万人

気候：砂漠気候

歴史：ソルトレイクシティとロサンゼルスを結ぶ鉄道路線の中の小さな宿場町として出発した都市。1931年にカジノを合法化したことによって観光都市へと転身。1980年代に起こった建設ブームにより多数の複合カジノリゾートが誕生し、総合エンターテインメントの街としての評価を得た。その他、都市周辺にはゴルフ場やショッピングモールなどが散在する。

主産業：観光業

ラスベガス vs. オーランド：観光都市としての変遷

【両都市の観光客数 2008】

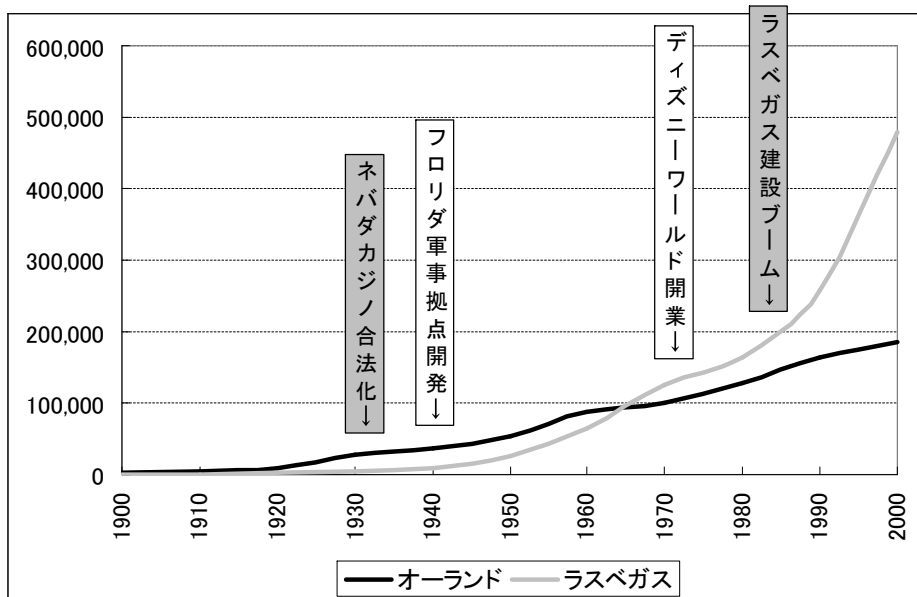
	オーランド		ラスベガス	
	実数	比率	実数	比率
総観光客	48,888,000	100%	37,481,552	100%
国際観光客	3,373,000	7%	5,622,233	15%
MICE観光客	5,744,000	12%	5,997,048	16%

出所：各都市発表の観光統計を元に EBI 作成

現在、オーランドを訪れる観光客数は年間約 4,900 万人、一方ラスベガスを訪れる観光客数は年間約 3,700 万人とオーランドに劣る。一方、その構成をみると国際観光客比率ではラスベガスが全体の 15%と、7%のオーランド

よりも国際化の進んだ観光都市であることがわかる。また、MICE 観光客比率においても、ラスベガス（16%）がオーランド（12%）を上回っている。

【都市成長の変遷】



出所：各都市発表の人口統計を元に EBI 作成

両都市の成長の変遷をみると、気候面で優位性を持つオーランドが都市としてはラスベガスよりも先行して成長をはじめたことが判る。一方、ラスベガス（ネバダ州）は 1931 年にカジノを合法化するも、それがすぐには都市の成長には結びつかず、成長が始まったのは 1940 年代以降のことである。この時期はエルランチョ（1941 年）、フラミンゴ（1945 年）など現在のラスベガスのカジノ集積区（通称：ストリップ地区）の原点となるリゾート型カジノの開発が始まった時期と一致する。その後、1980 年代の複合型リゾートカジノの建設boomによってラスベガスはその人口を一気に伸ばし、オーランド人口の 2 倍以上を抱える大都市へと成長した。

両都市の共通点

オーランド・ラスベガスの共通点は、「芸術、娯楽、余暇、宿泊料飲業」分野の就業者率が最も高い観光都市であることにある。しかし、比較的広範な産業に恵まれるオーランドと比べ、ラスベガスの方がより観光に対する依存度の高い都市であることが判る。

また、両都市とも特に国際観光客、MICE¹観光客を集める全米でも屈指の都市である点も共通である。外国人観光客の訪問都市ランキングでは、オーランド、ラスベガスは常に Top10 入りをする人気都市であり、同時に MICE の都市別開催数ランキングにおいても共に常に上位を占める。

【産業別就業者率 2008】

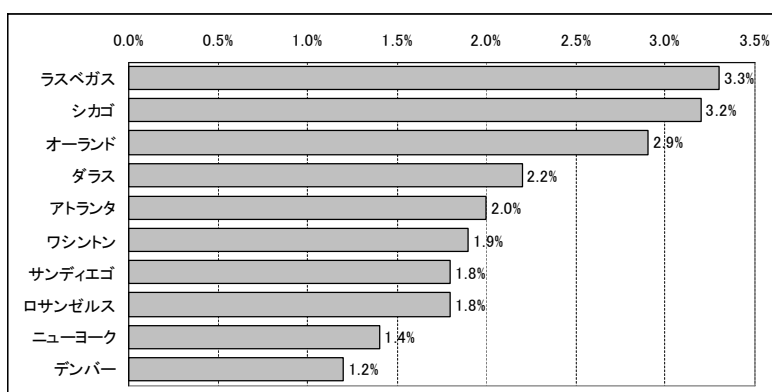
【外国人観光客²の訪問都市ランキング 2008】

業種	オーランド	ラスベガス
農林水産業	0.1%	0.2%
建設業	8.7%	11.5%
鉱業	4.1%	3.3%
卸売業	2.8%	2.1%
小売業	12.1%	10.5%
流通、交通業	4.5%	4.4%
情報業	2.8%	1.9%
金融、不動産業	8.2%	8.1%
科学技術、インフラ業	14.8%	11.2%
教育、医療、社会支援業	15.1%	13.4%
芸術、娯楽、余暇、宿泊、料飲業	19.2%	26.1%
公的サービス業	3.1%	3.5%
その他	4.4%	4.0%

都市名	実数(000)	比率
ニューヨーク	8,211	32.4%
ロサンゼルス	2,788	11.0%
サンフランシスコ	2,610	10.3%
マイアミ	2,585	10.2%
オーランド	2,433	9.6%
ラスベガス	2,027	8.0%
ホノルル	1,495	5.9%
ワシントン	1,470	5.8%
シカゴ	1,368	5.4%
ボストン	1,115	4.4%

出所：US Census Bureau(右)、Orlando Overseas visitor profile (左) を元に EBI 作成

【MICE の都市別開催数ランキング 2008】



出所：Orlando Convention/Group Meeting Visitor Profile を元に EBI 作成

¹ 会議、報奨、展示会などを目的とした観光

² 統計の取得主体が異なるため、本統計の扱う「外国人観光客」には同じ北米大陸から米国を訪れるカナダ、メキシコからの渡航客が含まれて居ない。

両都市の差異

両観光都市の最も大きな違いは観光客の1日あたり消費金額である。オーランドとラスベガスを訪れるそれぞれの観光客の1日あたり消費額を見てみると、ラスベガスが\$353.67であるのに対して、オーランドが\$127.74と大きく下回っている。ラスベガスの消費金額のうちギャンブル消費額(\$36.17)を差し引いた額、\$315.13で比べてもその差は依然として大きい。

【両都市の各種観光統計³ 2008】

	オーランド	ラスベガス
観光客数	48,888,000	37,481,552
平均滞在日数	3.99	4.54
1日あたり消費額/人	\$127.74	\$315.41(+\$35.85)
総観光消費	\$6,245,057,677.45	\$11,822,079,393.38

出所：各都市発表の観光統計を元に EBI が推計

オーランドの一人あたり消費額/人が相対的に低い理由

日帰り顧客比率

ラスベガス観光客は基本的にその殆どが宿泊ベースであるが、オーランド観光客は日帰り観光客比率が高い。結果的に1日あたり平均消費額が低下している。

【参考】 日帰り観光客比率： オーランド 36%⁴
ラスベガス 0%

ファミリー観光客比率

ファミリー観光客が多いオーランドでは消費者がアルコール類や夜のアクティビティに消費する機会が非常に少ない。

【参考】 ナイトライフを楽しんだ観光客比率： オーランド 9%
ラスベガス 49%⁵

上記統計の出所：各都市発表の観光都市を元に EBI が推計

その他、客室あたり宿泊者数が高い傾向のあるファミリー顧客が多いが故に一人あたり客室消費が減少している、そもそもテーマパークという業態そのものがそれほど観光消費を誘発する観光資源ではない可能性なども考えられる。

³ 下表のカッコ内はギャンブル消費額

⁴ 国際観光客の日帰り比率は公表されていないため、この数値は国内観光客のみ。国際観光客を含めれば、この比率はもう少し低まるものと考えられる。

⁵ 両都市のアンケート取得手法が異なるため、ラスベガス統計には「ホテル内のバーやラウンジを利用した者の比率」を充てている。「ナイトライフ全般」とした場合は、これよりも高い数値が出るものと思われる。

両都市の社会環境

【各種都市データの比較】

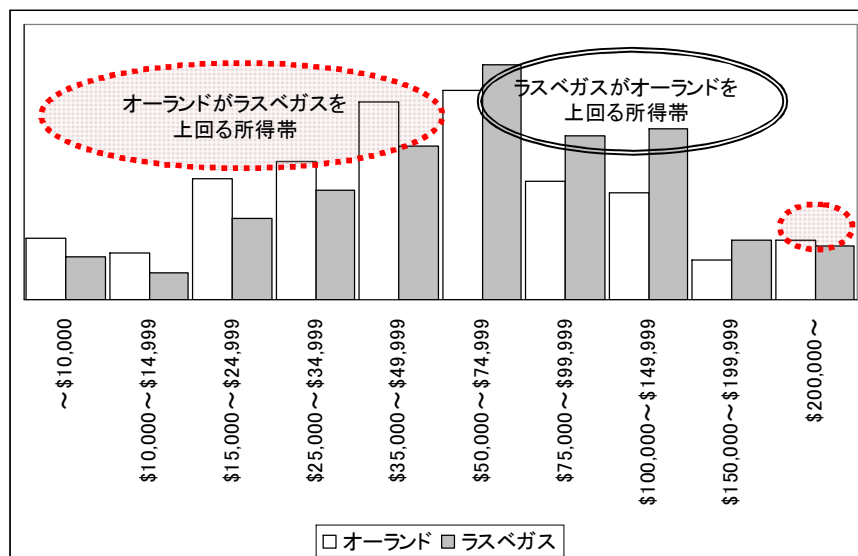
	オーランド	ラスベガス	米国平均
人口	218437	557149	-
世帯数	91,679	207,725	-
若年者比率(18歳以下)	76.4%	72.7%	75.5%
高齢者比率(65歳以上)	9.6%	11.5%	12.6%
平均世帯構成人数	2.38	2.68	2.61
世帯所得中央値	44,287	55,113	52,175
平均世帯所得	62,842	74,242	-
一人あたり所得	26,726	27,988	27,466
失業率	7.2%	6.6%	7.2%
貧困率	16.6%	11.7%	13.2%

出所: US Census Bureau 資料を元に EBI 作成

現在、オーランド人口は 22 万人に対してラスベガス人口は 55 万人、世帯数はオーランドが 9 万世帯に対してラスベガスが 20 万世帯。平均世帯構成人数ではラスベガス (2.68 人) がオーランド (2.38) を上回っている。

世帯あたり所得の中央値は、ラスベガスが\$55,113 と全米統計 (\$52,175) を大きく上回っているのに対し、オーランドは\$44,287 と全米統計を大きく下回る。また、一人あたり所得においても全米平均 (\$27,466) を上回るラスベガス (\$27,988) に対して、オーランド (\$26,726) はそれを下回っておりその差は歴然である。失業率 (全米平均 7.2%)、貧困率⁶ (全米平均 13.2%) においても、オーランド (失業率 7.2%、貧困率 16.6%) はラスベガス (失業率 6.6%、貧困率 11.7%) を大きく下回っている。

【オーランドとラスベガス住民の所得分布】



出所: US Census Bureau 資料を元に EBI 作成

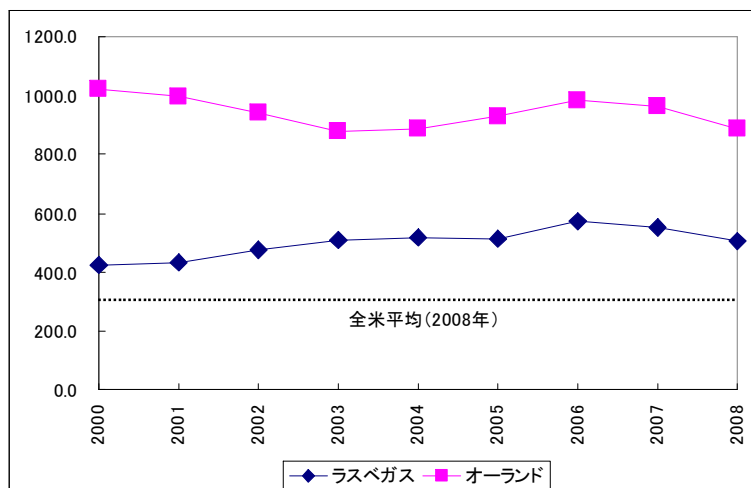
また、一般的に「カジノは住民の所得格差を生む」などという先入観も存在するが、オーランドとラスベガス住民の所得分布を比べてみる限り、オーランドの方が低所得層および高所得層への所得分布が大きく、むしろオーランドの方が貧富の差が激しいことが読み取れる。

⁶ その収入で十分な食料品購入ができないであろうと考えられる比率。アメリカ政府によってその基準値が定められている。

犯罪発生率

これまたカジノに対する偏見の多い犯罪発生率だが、間近 10 年のデータではオーランドはラスベガスよりもかなり高レベルの犯罪発生率を示している。そのイメージと裏腹に子供の樂園ディズニーを抱えるオーランドが、大人の樂園カジノを抱えるラスベガスよりも危険な街であることがわかる。

【両都市の犯罪発生率】



出所) City-data.com 発表の犯罪発生率を元に EBI 編集

まとめ：

1. カジノ、ディズニーと特有の観光資源を抱える都市オーランドとラスベガスを比較した場合、観光客の宿泊日数、国際観光客比率、MICE 観光客比率など多くの統計においてラスベガスがオーランドを上回る。
2. また、特に各観光客の消費金額においてもラスベガスはオーランドを大きく上回っている。
3. 両都市の住民統計を比べた場合、平均所得、失業率、貧困率のすべての統計において、ラスベガスはオーランドよりも良い数値を示している。
4. また、「カジノは地域に貧富の差を生む」、「カジノは地域の治安を悪くする」という主張は大いなる偏見に基づくものである。実際の統計に基づく限り、「子供の樂園・ディズニー」を抱えるオーランドの方が、「大人の樂園・カジノ」を抱えるラスベガスより貧富の差が激しく、より犯罪発生率が高い。

【著者プロフィール】

木曾 崇

㈱エンタテインメントビジネス総合研究所 ゲームングビジネス事業部長／主任研究員

早稲田大学アミューズメント総合研究所 カジノ産業研究会 研究員

ネバダ大学ラスベガス校ホテル経営学部を主席卒業（カジノ経営学専攻）。米国ラスベガス Four Queens Hotel & Casinos でのカジノ事業部長付き経営研修生を経て、カジノ事業者大手 Caesars Entertainment 社（現 Harrah's Entertainment 社）に入社。同社会計監査部にて監査人業務を勤めた後、帰国。2004年、㈱エンタテインメントビジネス総合研究所に入社。主任研究員としてカジノの専門調査チームを立ち上げ、現在では国内外の各種カジノ関連プロジェクトに携わる。2005年より早稲田大学アミューズメント総合研究所カジノ産業研究会研究員として一部出向、同研究所で国内カジノ市場の予測プログラム「W-K シミュレータ」を共同開発。

エンタテインメントビジネス総合研究所は、日本で最も早くからカジノ研究に取り組むエンタテインメント業界の専門シンクタンクです。1993年、弊社はそのグループ基金によりネバダ大学内に「国際ゲーミング研究所（IGI）」の設立を支援、世界でも珍しいカジノ専門の研究所として業界内外より大きな評価を頂いています。国際ゲーミング研究所では、世界で初めてとなるカジノ経営学を含むホスピタリティ経営に関する博士号取得講座を運営。弊社と共同でカジノ、ゲーミング業界に直面する様々な問題と状況に焦点をあてその解決法を探るほか、ゲーミング産業のソフト、ハード両面における研究支援を行っています。また、現在ではカジノに関する基礎調査、実地調査など各種クライアント様からのご要望に応じた、個別の調査研究も承っております。

各種お問合せは下記連絡先まで。

〒110-0015 東京都台東区東上野 3-24-3

Tel: 03-5688-4751 Fax: 03-5688-5353 E-mail: kiso@eb-i.jp